

第4学年国語科学習指導案

平成30年6月20日水曜日 第5校時

児童数 13名

指導者 ○○ ○○

- 1 単元名 人物の変化をとらえよう
～中心人物のビフォア・アフターカードを使って本を紹介しよう～
教材名 「走れ」（東京書籍4年上）

2 単元について

(1) 単元観

①本単元で取り上げる主な指導事項

本単元では、小学校学習指導要領・国語の第3学年及び第4学年「C 読むこと」の(1)ウ「場面の移り変わりに注意しながら、登場人物の性格や気持ちの変化、情景などについて、叙述を基に想像して読むこと」と、「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」のイ(ア)「言葉には、考えたことや思ったことを表す働きがあることに気付くこと」を取り上げて指導する。

②身に付けたい力に向けての言語活動とその特徴

本単元では、「C 読むこと」の言語活動例「エ 紹介したい本を取り上げて説明すること」を具体化した「中心人物のビフォア・アフターカードを使って本を紹介しよう」という言語活動を位置づける。

ここで取り上げる紹介カードには、お気に入りの本の中心人物の気持ちの変化を捉え、物語の内容の紹介文を書くようにする。紹介カードを書くには、中心人物に着目して、叙述を基に人物像や対人物との関わりを考え、中心人物の気持ちの変化を捉えていなければならない。そのため、今回取り組む紹介カードは、指導事項の達成に向けて有効であると考えた。また、中心人物のビフォア・アフターカードと名前をつけることで、児童の活動意欲が高まると考えた。更に紹介カードを図書室の本の紹介コーナーに置いてもらうことで、目的意識や相手意識が生まれ、主体的に取り組むことができるとも考える。

本教材は、時間の経過に沿って物語が展開し、場面の移り変わりをとらえやすい教材である。また、登場人物の心情を表す言葉が数多く書かれていることも特徴である。そして、中心人物ののぶよの視点から出来事が書かれているので、心情の変化も読み取りやすい教材である。

(2) 児童観

児童は、3年生の10月には、「サーカスのライオン」で、人物の気持ちの変化に気をつけて読む学習を行い、4年生4月には、「こわれた千の楽器」で、場面の様子や人物の気持ちが伝わるように音読練習を重ね、好きな場面を音読で発表することに取り組んだ。授業中の発言の様子を見ると、自分の考えを持っているが、話しているうちに何を言ったらいいのか分からなくなる児童や、登場人物の心情を読み取ることが難しい児童がいる。3年生1月に行ったCRTの結果では、叙述に即した読み取りの問題の正答率が学級平均43%（全国平均46%）であった。4年生4月に行った標準学力調査の結果でも、登場人物の心情を問われた問題に間違いが多く見られた。叙述から場面の様子をとらえたり、叙述を根拠に登場人物の心情を読み取ったりすることに弱さがあると考えられる。

(3) 指導観

第一次では、教師による本の読み聞かせを聞いたり、「中心人物のビフォア・アフターカード」の見本を見たりして単元のゴールイメージを持つ。そして、自分が選んだお気に入りの本の中心人物の気持ちの変化を捉え、カードを作り、図書室に置いて見てもらうという学習の目的意識を持たせる。

第二次では、まず、教材文の登場人物の性格について押さえ、はじめと終わりの気持ちの変化を大

まかにとらえる。中心人物の気持ちの変化に着目し、なぜ変わったのか、中心人物ののぶよの立場から、けんじ、おかあちゃんに対する気持ちや人物の関係を読み取っていく。特に、第三場面では、中心人物であるのぶよの心情が分かる表現を探し、大きく変わったのはどこかをとらえさせたい。そして、中心人物に大きな影響を与えた対人物はだれか、変わったきっかけは何かを考えさせることで、なぜのぶよの気持ちが変わったのかを読み取らせたい。読み取りの際には、自分の経験と文章を結び付けて具体的に感じ取らせるようにする。また、気持ちや様子が分かる表現を見つけて付箋をつけたら、のぶよの気持ちの変化をワークシートに記入したりすることで、ビフォア・アフターカードの作成にも生かせるようにする。

第三次では、お気に入りの本の中心人物の気持ちの変化を読み取り、話の初めと終わりで中心人物の気持ちがどのように変化したかが分かる「中心人物ビフォア・アフターカード」を作成していく。カードを作る際には、ワークシートを使い、気持ちの変化を捉えさせ、ペアで交流する。ペアで話し合いをする時は、紹介したい本の中心人物の気持ちが表示されている文章を基に交流できるように付箋やワークシートを活用する。

本単元を通じて、児童が叙述に即した読み取りをして、中心人物の気持ちの変化を中心に本の紹介ができるように取り組ませたい。そして、中心人物のビフォア・アフターを読み取ることをこれからの読書の楽しみ方の一つとなるようにつなげていきたい。また、気持ちを表す言葉にはいろいろな表現があることにも気付かせ、今後の学校生活の中で活用できるようにさせたい。

(4) 研究主題との関連

○語彙力を増やすために、文章の中から気持ちを表す言葉に付箋を貼ることで、言葉には気持ちや感情を表す働きがあることに気付かせる。

○主体的・対話的で深い学びを実現するために、単元計画を児童と考えていく。ペアでお互いが紹介する本も読んでおいて内容を把握し、叙述に即した意見を交流できるようにしておく。授業では、読み取りをして気持ちの変化を記入したワークシートや付箋を使い、本の叙述を基にした交流ができる児童の姿を目指したい。

○本単元では、図書館資料を活用し、並行読書を進めていく。そして、第三次で自分が選んだ本の「中心人物ビフォア・アフターカード」を中心人物の気持ちの変化を読み取って作成する。

3 単元の目標

○ビフォア・アフターカードを作るために、何度も本を読みながら中心人物の気持ちの変化について考えようとすることができる。

○中心人物となる人物の気持ちの変化とその理由について想像しながら読むことができる。

○言葉には考えたことや思ったことを表す働きがあることに気づくことができる。

4 単元の評価規準

国語への関心・意欲・態度	読む能力	言語についての知識・理解・技能
・ビフォア・アフターカードを作るために、何度も本を読みながら中心人物の気持ちの変化について考えようとしている。	・中心人物に着目して叙述をもとに登場人物の性格や気持ちの変化について想像して読んでいる。【C(1)ウ】	・言葉には、考えたことや思ったことを表す働きがあることに気づいている。【伝国イ(ア)】

5 指導と評価の計画（全 9時間）

次	時	○ 指導のねらい（目標） ・ 学習内容	評 価			
			関	読	言	評価規準 (評価方法)
一	1	○学習の見通しを立てることができる。 ・教師による「中心人物ビフォア・アフターカード」のモデルを見て、単元のゴールイメージをつかむ。 ・単元計画を立てる。	◎			◎ビフォア・アフターカードに興味を持ち、これからの学習に意欲的に取り組もうとしている。(発言・行動観察)
二	2	○教材文を読んで内容の大体や人物についてをとらえることができる。 ・教材文の範読を聞きあらすじをまとめる。 ・教材文を3つの場面に分けて、内容の大体をとらえる。 ・登場人物について考える。 ○並行読書 ・選んだ本を読み、あらすじをまとめる。		◎		◎登場人物や中心人物の気持ちの変化を確かめ、内容の大体を読んでいる。(ワークシート・教材文・発言)
	3	○第一場面で登場人物の気持ちを考えることができる。 ・人物の気持ちが分かる表現を見つけ書き出す。 ・のぶよの運動会に対する気持ちを読み取る。 ○並行読書 ・選んだ本を読み、中心人物の気持ちが分かる表現を見つけて赤い付箋を貼る。			◎	◎言葉には、考えたことや思ったことを表す働きがあることに気付いて読んでいる。【伝国イ(ア)(ワークシート・教材文・発言)
	4	○第二場面で登場人物の気持ちがわかる表現に着目してのぶよの気持ちが大きく変わったところを捉えることができる。 ・対人物との関係にも目を向け、中心人物の気持ちが変わったのはなぜかを読み取る。 ・ワークシートを基にペアで中心人物の気持ちのビフォア・アフターと理由を話し合う。 ○並行読書 ・選んだ本を読み、中心人物の気持ちが変わったところを見つけ黄色の付箋を貼る。 ・気持ちの変化の理由を考える。		◎		◎人物の行動や会話などの叙述をもとに、人物の気持ちや関係を想像しながら読んでいる。【C(1)ウ】 ○ ○言葉には、考えたことや思ったことを表す働きがあることに気付いて読んでいる。【伝国イ(ア)(ワークシート・教材文・発言)
	5	○第三場面で登場人物の気持ちの分かる部分に着目して、のぶよの対人物に対する思いや人物の関係を読み取ることができる。 ・人物の気持ちが分かる表現を見つけ書き出す。 ○並行読書 ・選んだ本を読み、中心人物の気持ちが分かる表現を見つけて青い付箋を貼る。		◎		◎人物の行動や会話などの叙述をもとに、人物の気持ちや関係を想像しながら読んでいる。【C(1)ウ】 ○ ○言葉には、考えたことや思ったことを表す働きがあることに気付いて読んでいる。【伝国イ(ア)(ワークシート・教材文・発言)

	6	○「走れ」の「ビフォア・アフターカード」を作り、友達に紹介することができる。 ・ワークシートを基にしてカードを作る。 ・友達のカードの紹介を聞き、交流する。		◎	◎人物の行動や会話などの叙述をもとに、人物の気持ちや関係を想像しながら読んでいる。【C(1)ウ】 (発言・カード)
三	7 本 時	○並行読書の中の人物の気持ちの変化について、「ビフォア」「アフター」「きっかけ」を整理することができる。 ・付箋を基に中心人物の気持ちや気持ちの変化を考え、ワークシートに記入する。 ・中心人物のビフォア・アフターを考え、変化したきっかけを考える。 ・ペアやグループで交流する。 ・交流を基に考える。		◎	◎【読】人物の行動や会話などの叙述をもとに、人物の気持ちや関係、気持ちの変化や理由を想像しながら読んでいる。【C(1)ウ】 (付箋・ワークシート)
	8 ・ 9	○「ビフォア・アフターカード」を完成させることができる。 ・前時に作成したワークシートを参考にしてカードを構成する。 ・図書室においてもらうために、人に見てもらうことを考えて作成するように確認する。 ・出来上がったカードを教室で交流し合う。 ・学習の振り返りをする。		◎	◎中心人物の変化やその理由を読む人に分かってもらえるように作成しようとしている。(カード)

6 本時の指導 (7 / 9)

(1) 本時の目標

○並行読書の中心人物の気持ちの変化について、「ビフォア」「アフター」「きっかけ」を整理することができる。

(2) 本時の評価規準

【読】人物の行動や会話などの叙述をもとに、人物の気持ちや関係、気持ちの変化や理由を想像しながら読んでいる。

(3) 学習の展開

	学習活動	指導上の留意点	評価規準 (評価方法)
導入 (5分)	1 本時の課題をつかむ。	・言語活動を確認し、目的意識や意欲を持たせる。	
	めあて 並行読書の中心人物の気持ちの変化について、「ビフォア」「アフター」「きっかけ」を整理しよう。		
展開 (35分)	2 これまでの読み取りをもとに選んだ本の「ビフォア・アフター」をワークシートにまとめる。 (個人) ・中心人物の気持ちと気持ちの変化を考える。 ・ビフォア・アフターを考える。 ・気持ちの変化のきっかけを考える。	◆付箋を貼っている文章から、中心人物の気持ちを考えさせる。	
	3 ペアまたはグループで交流をする。 ペア 6分×2人 3人 5分×3人	◆交流の時の流れと話合いの話型を示す。 付箋を貼った本の文章を示しながら交流させる。 ①中心人物のビフォア・アフター ②変化の理由 ③意見交換 ・文章から中心人物の気持ちをとらえられているかに気をつけて話を聞くことを確認する。 ◆話合いの際には、選んだ本のどの部分から考えたのか、貼っている付箋を基に説明をさせる。 ・発表者が終わってから意見交換を行わせる。 ・必要があれば、友達の意見を聞いて自分の読みを再考する。	読人物の行動や会話などの叙述をもとに、人物の気持ちや関係、気持ちの変化や理由を想像しながら読んでいる。 (発表・発言・ワークシート)
	4 気持ちの読みとりを見つめ直す。		
	5 話合いの様子を全体で交流する。	◆ペアまたはグループで話し合ったことを数名に発表させる。	
	6 学習をふりかえる。	◆文章の読みとり方について友達との話し合いで分かったことや気づいたことを書かせる。	
まとめ (5分)			

(4) 評価基準 B 叙述から中心人物の気持ちの変化を想像して読んでいる。

(5) 準備物

ワークシート 本 付箋

(6) 板書計画

ビフォア・アフターカードを作って本を紹介しよう

めあて

並行読書の中心人物の気持ちの変化について、

「ビフォア」「アフター」「きっかけ」を整理しよう。

学習の流れ

① 中心人物の気持ちのビフォア・アフター

② 変化の理由（きっかけ）

③ 意見交換

① 中心人物のビフォアは・・・です。

・わけは、本の（文章）にくと書いていて、・・・と思うからです。

・だから、中心人物のビフォアは・・・。とまとめました。

② 中心人物のアフターは・・・です。

・わけは、本の（文章）にくと書いていて、・・・と思うからです。

・だから、中心人物のビフォアは・・・。とまとめました。

③ 気持ちの変化のきっかけは、・・・です。

・わけは、・・・だからです。

意見交換

発表者の話を聞いて、自分の考えを伝える。

選んだ本の中心人物のビフォア・アフターになっているか。

話し合いのポイント

どの文章から中心人物の気持ちをとらえたのかを説明する。

ふりかえり

・友達と交流してみて考えたこと。

・文章から中心人物のビフォア・アフターを考えることができていたか

振り返ってみる。